

ミカンば 草でうまくなる

5



7月下旬のミカン園。ヒメイワダレソウに覆われている

ヒメイワダレソウに恋をした

和歌山・岩本 治

連載では、これまでいろいろと試してきました草を紹介してきました。今回は、そのなかで一番気に入っているヒメイワダレソウについて詳しく紹介します。

ヒメイワダレソウはクマツヅラ科で南アメリカ原産の多年草です。タネができるないので最初は苗を買う必要がありましたが、グラウンドカバープランツとして河川敷などで利用されているので安く手に入れます。私はインスターで40ポット5000円で購入しました。タネで増やせないぶん少し手間はかかりますが、これまでの草のダメリットを克服するような草です。8年間試してみてわかつてきましたことを、以下にまとめました。

いいところがたくさんある

①広がるスピードが速い

春～秋は緑のままで、絨毯のように広がります。シバの10倍といわれるス

ピードで、ランナーを伸ばして広がっていきます。1年で一つの苗から畠2枚分広がったこともあります。雪が降つたり氷点下になつたりする寒い冬は地上部が枯れますが、地下部は残り春になるとまた出てきます。

②土壤条件を選ばず、養分競合しない

土壤条件に合わないと、増やしたい草が他の雑草に負けて消えてしまうことがあります。たとえば、肥料分の多い土壤にナギナタガヤを植えたら、他のイネ科雑草に負けてしまった

こともありました。その点、ヒメイワダレソウは肥料の多少やpHも気にせず増やせます。間に他の雑草も生えますが、6～11月のミカンの生育期はヒメイワダレソウだけになり、他の雑草を抑えてくれます。また、果実と養分競合する心配もありません。

③草丈が低く樹に巻きつかない

基本的に草丈は10cmほど。日陰をつくることも果实に傷をつけることもあります。草丈が低いので刈つたり倒したりする必要もないです。

④踏圧に強い

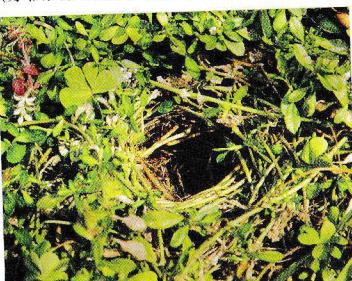
日々の作業で草の上を歩いても問題なく、クッションのようにフカフカ。踏まると草丈が低くなったり、葉が小さくなつて枯れたりする草が多いのですが、ヒメイワダレソウはオオバコのように丈夫です。私の園には多いときは1日100人の観察者が訪れて、ヒメイワダレソウの上を踏み荒らしますが、これまで枯れたことはありません。しなつとしても数日で復活します。

干ばつにも大雨にも強い

干ばつがひどかった2017年と翌



大好きなヒメイワダレソウと筆者
(赤松富仁撮影、以下もすべて)



植えてから7年目のヒメイワダレソウの下をかき分けてみると、10cmほど茎の層があった。地中には太い根が下向きに深く張るので、表層から地下30cmあたりまでに多くのミカンの根と養分競合しにくい

土の免疫力を高め地力向上！

野菜・果樹・花・稻…
あらゆる作物に！



乳酸菌土壤改良剤の決定版！

土と人と環境にやさしい
ラクト・バチルス

- ①減肥・減農薬で低成本農業の実現！
②土壤病害菌の生育を抑制！

総販売元・製造元

薩摩の農文化を世界へ
日本有機株式会社
〒899-8604
鹿児島県曾於市末吉町諷訪方 4122

TEL 0986-76-1091
FAX 0986-76-6554

左のQRコードで
簡単アクセス！

<https://www.nihonyuki.jp/>



アーティセイカとアーティセイカの樹は年中緑のままほとんど生えない

慣行栽培や自然に生える草の草生栽培、アーティセイカの草生栽培の園地では、ミカンの葉が巻いたり黄色くなつたりしていたときのことです。果実は水分が少なすぎて肥大せず、酸が残つてしましました。ところがこのとき、ヒメイワダレソウの草生栽培園地のミ



3月下旬の時点では春草が圧倒的に優勢。この後、ヒメイワダレソウが優勢になってくる

年にも、素晴らしい発見をしました。

年にも、素晴らしい発見をしました。

です。

いっぽうで、「干ばつに強いとなる

と、雨が多い年は土壤が乾きにくくて果実品質が落ちるだろう」という人もいるでしょう。たしかに、土壤が適度に乾燥しないとミカンが水分やチツソを吸いすぎて、糖度が落ちたり果皮が厚くなったりします。しかし、草生栽培では草の根によって土の團粒化が進

土壤微生物多様性・活性値の目安	
数値（万）	土壤状態
30～50	農薬や化学肥料が過剰
50～70	ごく平均的
70～100	土づくりが比較的うまくいっている
100～130	豊か
130～150	大変豊か
150～200	極めて豊か

活発な微生物がたくさんいる

んでいるので、水はけがよく必要以上の水分を逃がしてくれます。近年の干ばつや大雨にも耐えるミカン栽培にも、ヒメイワダレソウは欠かせないはずです。

ヒメイワダレソウを知れば知るほど、もっと深く知りたいと思うようになつていきました。そう、私はヒメイワダレソウに恋をしてしまったのです。でも恋に溺れ、本質や現実を見失つてしまつてはいけません。

そこでJAに土壤分析、DGCGテクノロジーという研究所に微生物分析を依頼して、ヒメイワダレソウ草生栽培園地の土壤環境を調べることにしました。その結果、土壤分析では慣行栽培はもちろん、自然に生える草での草生栽培に比べ、リン酸、石灰、苦土などのバランスがいいことがわかりました。

微生物分析では、アーティセイカの園地は136万、ヒメイワダレソウの園地は160万という結果でした。これは「土壤微生物多様性・活性値」といっても、大きければ大きいほど有機物を分解する能力が高く、そのぶん植物に栄養を与える能力も高い（表）。微生物がたくさんいても、ぐうたらで仕事をしない微生物ばかりなら数値は低いままということなので、ヒメイワダレソウの園地には活発な微生物がたくさんいることがわかりました。

アーティセイカとヒメイワダレソウの数値に違いがあったのは、アーティセイカとアーティセイカの樹は年中緑のままほとんど生えない

力は畑一面を一年中覆つてしまふからではないかと考えています。ヒメイワダレソウは冬になると勢いがなくなり、その間は畑に合つた自然の草が生えてきます。こうして多様な草が適度に生えて枯れることが、土壤中の微生物を多様化させ、團粒化を進めています。

ヒメイワダレソウを植えることが、末永く土壤や農地を守つていく一つの方法だと考えています。次回はヒメイワダレソウをラクに増やす方法を、失敗談も含めて紹介したいと思います。